ＰＴＡ新聞 おきなわ

発行
（一社）沖縄県ＰＴＡ連合会
〒900-0002
那覇市曙2-26-27
ＴＥＬ（098）867-3582
ＦＡＸ（098）867-0309
責任者　石川　謙

徳島発！ 渦巻く力
これからの社会に巣立つ子どもたちのために
～まけまけいっぱいの愛を注ぎ込もう！～

第64日本ＰＴＡ全国研究大会徳島うずしお大会

第64回ＰＴＡ全国大会徳島うずしお大会が8月20日、21日の2日間に渡って開催されました。

初日20日は、徳島市や鳴門市をはじめ県内七会場で、各分科会領域の基調講演や各研究課題について、パネリストの方々による討議がなされました。

２日目（21日）は、アクティとくしまにて、全体会が盛大に開催されました。最初に、徳島県阿波踊り協会徳島支部による歓迎アトラクションがあり、華麗な阿波踊りのパフォーマンスで幕を開けました。

記念講演では、京都精華大学学長の竹宮惠子氏による講演がなされ、自身が漫画家としてデビューされた話や、子をもつ親としての体験、教育者としての立場からの話をされました。

輝く未来をひらくために大切なこと～子どもたち、そして私自身が自立するために～のテーマのもとに、数々の貴重な体験談を聞くことが出来ました。

また、次期開催地である仙台市からも多数のメンバーが駆けつけ、今大会からのバトンタッチと仙台大会のPRを行いました。

分科会報告

【第1分科会】組織運営・広報活動

小松市ミリカホールにて開催され、芝田小学校1年生3人による天王社稚児三番叟のアトラクションで幕を開けました。

基調講演は、徳島県出身の作曲家でサックス・EWI奏者の住友紀人氏により「THE REASON 守るべきもの」と題した講演がなされました。例え反対されても、信念をもって、誠心誠意 自分のやりたいことを相手に伝えれば、応援して貰える様になったと、自分が作曲家を志したエピソード話や、自分の親兄弟や家庭の話を実体験を交えて話などもされ、講演の最後には、自身の作曲された曲も大学の後輩の方々と共に披露してくれました。

親の為に何か一生懸命に

やってあげることより、普段何気ない会話をたくさんすることが一番の親孝行であると、お母様を亡くされた際に気付かされたと話されていたことに私自身、最も感銘を受けました。

研究課題の討議では、「ＰＴＡの組織づくりと広報活動について語り合おう」のテーマのもと、現状と課題について様々な意見がパネリストの方々から挙がりました。ＰＴＡを組織運営していく中で、何をやっているのかを明確にすること、誰がでも意見することができる様な開かれた組織であること、みんなに情報を発信し知って貰うこと等、子ども達の為にできることについて色々と協議がなされました。

第1分科会の様子

広報委員として、自分に何ができるのか、何をＰＴＡ会員に伝えていけるのかを感じさせられる貴重な時間となりました。

長嶺中学校ＰＴＡ　外間　隆史

【特別第１分科会】

研究課題

「子どもを取り巻く課題の解決に向けて～人と人との結びつきとコミュニケーション力～」

特別第1分科会では鳴門市撫養小学校ＰＴＡの実践発表がありました。鳴門市撫養小学校ＰＴＡでは「子どものための教育活動を支えるＰＴＡ」を基本理念とし、会員一人一役を実践している小学校です。また校舎内外のペンキ塗りや靴箱制作、花壇作りなど教育環境の整備にＰＴＡ会員と地域の方々が一体となった取り組みなどが、特に素晴らしいと思いました。

基調講演では「コミュニケーション再考」～人生の折り返し地点より～をテーマに水野真紀氏を講師に迎えた講演が行われました。講演の内容としては、子どもの時から身なり、食事はきちんとすることや挨拶力を磨くこと、親の目配り気配りが大切であるということでした。また、親が勉強してスキルアップすることで子どものためにもなり子どものコミュニケーション能力が上がる、親と地域に密になる子はコミュニケーション能力が備わるといった様々なお話が聞けました。

この研究大会に参加して多くの学びと様々な方たちとの懇親が持て、実り多い研修になりました。今後のＰＴＡ活動に生かしていきたいと思います。

島尻地区ＰＴＡ連合会　副会長　島崎　朋広

【第５分科会】

環境教育・地域連携

「環境教育・地域連携」のテーマに惹かれ第５分科会に参加しました。校長として勤務している浦添市立前田小学校は地域との連携が大変密で、学んだことを学校経営・ＰＴＡ活動に生かしたいという期待からです。

基調講演は講師の横石知二氏（株式会社『いろどり』社長）が、徳島県上勝町で展開してきたアンビリーバブルなお話（地元のおばあちゃん達が葉っぱを売って年収一千万円を得る）をして下さいました。農協や役場に勤めながら、持ち前の発想力を生かして、田舎だからできることをアイディアとして取り組んでいるお話で、横石氏の情熱と地元愛を感じる内容でした。

「おばあちゃん達にパソコンを配る」「葉っぱを売って儲ける」など、一見非常識的なことに取り組み、実際、実績をあげた（葉っぱを売って四十億に換わった）お話から、発想の転換と現場力を磨きあげることの大切さに気づかされました。

「誰にでも居場所と出番があることが大切で、現場のプロデューサーが一人一人の出番と役割のある舞台づくりをすることが大切」という言葉が印象的でした。ＰＴＡ活動にも通じるお話で、組織づくりや活動にも参考になる考え方ではないでしょうか。

講演の後、「ふるさとを誇れる子ども達の育成と家庭・学校・地域との在り方」のテーマでパネルディスカッションがありました。四人の方の実践紹介と長年地域に関わってきた具体的で力強いお話が聴けました。

分科会全体を通して、われわれ大人自身が「ふるさとに誇りをもち」活動する姿・生き様を子ども達に見せることの大切さを感じさせられました。横山氏が、「近い将来、葉っぱ集めのためのドローンを勝山町の里山にいっぱい飛ばすことが夢です。」と結んでいました。ふるさとや地域に夢を持ち続ける大人の姿を私たちも子ども達に示していきましょう。

沖縄県ＰＴＡ連合会　副会長　平井　りい子

木もれ陽　幸せな環境に感謝

南風原町立北丘小学校
校長　濱元　朝純

県内で唯一海に面していない、沖縄本島南部の南風原町。その北側の小高い丘の上に位置するのが私の勤務する学校である。

校門を入ると、「にこにこ坂」と名付けられた桜並木を通って高低差は24Ｍの坂を登る。登った先の「みどり広場」と名付けられた児童玄関の前には開校当初に植えられた数多くの木々が立ち並び子どもたちに癒しの木漏れ日をそそいでくれている。今の季節は、ゴールデンシャワーの黄色の花とサルスベリのピンクの花が咲き誇る。

本校ＰＴＡは、明るく元気な上原会長を中心に、「役員・会員が活動を楽しむ」をモットーに、ＰＴＡを「ＷＶＣ（ワッター・ボランティア・クラブ）」と呼び、役員、各専門部の皆さんが日々子どもたち・学校のために取り組んでくださっている。

また、本校の学習支援ボランティアは、年間延べ人数は２００人を超える保護者・地域の方々にご協力をいただいている。

このように緑に囲まれた自然環境、子ども達をいつも第一に考えてくださる保護者・地域の皆様に囲まれた環境に育つ子どもたちは幸せである。もちろん私たち教職員も幸せである。これからも、これらの環境に感謝しながら「児童がやる気と活力に満ちた、緑豊かな美しい学校の創造」を理念に教職員一丸となって取り組んでいきたい。

我が家の子育て
名前に込めた思い

那覇地区ＰＴＡ連合会
会長　関戸　塩

私の名前は「塩」、兄は「麦」です。変わった名前ですが、私の親に聞くと「米を食べられなくても、せめて麦を食べ、塩をなめてでも生きていってほしい」との思いで付けたそうです。

いざ自分の子どもの名前を付ける際、ミートゥンダーミーティングを重ね、小５になる長男は「キビ」、小１の長女は「みず」と名付けました。「沖縄で生まれ、すくすく育ってほしい」、「キビをかじって、水を飲んでも何とか生きていってほしい」と願いを込めました。もう一点は楽しいことが好きな夫婦の間に生まれた子なので「おもろい子になってほしい」という希望も変わった名前を付けた中にあります。

私と妻は、琉球大学八重山芸能研究会で出会いました。歌って踊れる夫婦です。その影響が子どもにもあったようで、地域の浦添市前田に伝わる「前田棒」に兄妹で取り組み、三線クラブにも入っています。

子育てはまだまだ途中で、語れるほどのことはありませんが、今のところ希望通りのいい子に育ってくれています。息子の仕上げ歯磨きをしたり、娘の前髪を切りすぎたり、家族でスピッツやｐｅｒｆｕｍｅの歌を歌って踊ったり、幸せを感じる日々です。

私の親から自分の子まで名前を通して「生きているだけで丸もうけ」の気持ちがあります。これから何があるか分かりませんが「子ども達が生きているだけでいい」を胸に、家族でキャイキャイ言いながら過ごしていきたいと思っています。

第17回

裏方一番

欲張ろう！ もっと地域一体！

【喜児夢庭の会】
（きじむなーのかい）

発足は12年前当時は美東小学校発信で「お母さん方はＰＴＡを頑張っているのに、お父さんたちに何かできることはないか？まずは月に一回お酒を飲みながら考えましょう」と始まったのがきっかけです。最初は、他校との交流ソフトボール大会やバスケットボール大会等のスポーツを重ねていき、親睦を深めていきました。それから四年後、第三金曜日のパトロールをヒントに週に一度の夕暮れ帰宅指導パトロールが始まりました。その頃は、子どもが学校を卒業すると親も卒業という流れがあり、どんどん会員は減っていく一方・・・とうとう私一人になってしまったのです。それからしばらく活動休止状態が続きました。そんな中、沖縄東中学校のお父さん方から『帰宅指導パトロール』のアドバイスをください！と連絡があったのです。それからまた活動が再開し、現在に至っております。現在では、発足当初のＯＢの方々も巻き込み、現ＰＴＡのメンバーへ「体の続く限り、70歳、80歳まで活動を行うつもりです。子どもと一緒に卒業なんて考えず活動していきましょう！」との声かけに賛同していただき、活動が続いています。

感謝状を受け取る喜児夢庭の会の皆さん

現在の喜児夢庭の登録人数は40人。週に一度の帰宅指導では常に15人前後のお父さん方が参加しています。意識の高いお父さん方に出会えて、幸福者だと常々思っています。この活動を評価していただき昨年沖縄警察署より感謝状をいただきました。

発足から12年、【地域の会・喜児夢庭の会】と称して地域一筋・会合も楽しみながら今後も活動していきます！

喜児夢庭の会
代表　當銘　由喜夫

場所：浦添市前田（前田トンネル上）

第21回 我が校区の文化・歴史遺産紹介

組踊の父 玉城朝薫の墓

玉城　朝　薫（たまぐすく　ちょうくん）
（1684年～1734年）

琉球の代表的な宮廷舞踊家・玉城間切の惣地頭の家に生れた。跡目を継いで玉城間切総地頭職となり、官僚としても領主としても有能な活躍をするほか、薩摩藩や江戸幕府に対する琉球の慶賀使や謝恩使にたびたび随行して、生涯で薩摩上り５回、江戸上り２回を経験し、能楽や狂言などの芸能を見聞、大和芸能への造詣を深め、吸収していった。１７１８年、朝薫は御冠船踊の踊奉行（使者をもてなすために音楽や踊りを指導する役割）に任命された。翌１７１９年の冊封使歓待の重陽之宴を執り行う際に、自分が江戸で見た能や狂言を活かして、琉球の音楽や踊り、そして言葉を使った劇をやりたいと思い、琉球の昔話をテーマにした劇の台本を書いた。そしてその劇が上演されると、大盛況で大きな反響を呼んだ。こうして成功をおさめた劇は、「組踊（くみおどり）」と呼ばれるようになった。のちの昭和47年に、「組踊」は国の重要無形文化財に指定された。

時代背景として、当時は踊りや楽器が弾けないと役人になることはできなかったため、朝薫は楽器や踊りのけいこに励んだ。日本語の勉強にも力を入れながら、見聞を深めていった。朝薫は才能と環境に恵まれ、更なる努力があって、開花したといえる。

（末吉　建作）

はいかいをめざして０　夜回りの人たち

特集　３号連載

ＪＴ－ＰＬＡＮを通して　（中）

沖縄県宮古地区少年補導員協議会
少年補導員　友利　正治

職場体験に復帰して高校を受験

年が明け、年賀状を整理していると、なんとＮ君からの年賀状が入っているではありませんか。年賀状には「あけましておめでとうございます」と手書きで書かれており、にっこり笑ったウサギの絵が描かれていました。私は、正月からよいことがあったと、妻と一緒に喜び、すぐに「待っているからいつでも来なさい」と返事を送りました。

１月18日、Ｎ君がひょっこり職場に訪ねてきました。学校からは三学期になっても登校して来ないと聞いていましたので、びっくりしました。Ｎ君は「毎日、留守電にメッセージを入れてくれてありがとうございました。メッセージを聞いて僕は変わらないといけないと思いました。また、職場体験をさせてください」と、深々と頭を下げたのです。これまでにないＮ君の真剣な顔に、私は再びＪＴ－ＰＬＡＮをスタートさせることを決意しました。

Ｎ君が心を入れ替えたのはすぐにわかりました。彼が初めて「高校受験をしたい！」と言ったのです。そして、「僕は頭が悪いから、学校でみんなと一緒に勉強するのは恥ずかしい。ここで勉強して入試を受けたい」と必死に頼むので、先生の了解を得て、Ｎ君の受験勉強を私の事務所で始めることにしたのです。

Ｎ君の受験勉強が始まったころから、先生方が職場にＮ君の様子を見に来るようになり、事務所で学習支援を援助してくださるようになりました。

写真はイメージです。

Ｎ君は勉強をみてもらううちに、先生方の大変な苦労と愛情を感じたのでしょうか、いままで「学校へは行かない！」と言っていたのに、学校へも登校するようになり、「卒業式も出るから、友利さんにはぜひ出席してほしい」と言うまでになりました。

Ｎ君の前向きな態度に、私はとてもうれしくなりました。しかし、受験勉強のスタートが遅かったためか、本人としては一生懸命頑張ったのですが、合格することはできませんでした。そして、Ｎ君からの　連絡は、受験発表後から再びプツリと切れてしまったのです。

次号へ続く

（元気で働いていたＮ君に再会）

成功させよう

第58回

沖縄県ＰＴＡ研究大会宮古大会

平成28年11月26日（土）27日（日）

「育てよう、挑戦する心、
今出来る事から行動しよう」

～すまぬぐくる　命どぅ宝～

第67回
沖縄県
童話・お話・意見発表大会
（那覇地区大会）
平成28年12月9日金曜日
開催！

平成28年度　食育シンポジウム

生涯にわたって心豊かにたくましく
生きる力をはぐくむ食育の推進

今できることは必ずある

平成28年8月11日(木)今年から始った祝日「山の日」に、沖縄県教育委員会・学校給食会・沖縄県ＰＴＡ連合会・学校栄養士会・学校給食研究協議会主催の食育シンポジウムが浦添市社会福祉センターにおいて開催されました。

食育シンポジウムの様子

基調講演とシンポジウムが行われ、今の子ども達がおかれている食事教育事情から見える問題点、課題、未来について活発なディスカッションが行われました。

基調講演は、「食育と子育て」～学校、家庭、地域の連携～と題して、「弁当の日」提唱者である竹下和男氏による講演でした。その中で竹下氏は、自身の研究・調査で明らかになった現況にふれ「おふくろの味」の変容、味覚の低下などについて話されました。味覚の低下を促すのは「今晩、何食べたい？」という親の言葉かけだとのこと、親が子どもに食べさせたい栄養面を考慮したメニューの食事をさせる事こそが味覚を正常に発達させるとのことでした。

講師 竹下 和男 先生

参加者の濱比嘉健さん（沖縄市ＰＴＡ連合会会長）は、「弁当の日の話から始まるかと思いきや、近年の親の状況からの衝撃的な話の展開に驚かされました、「大人の覚悟、行動で子どもが変わる」先生の講演を聞いて、改めて子ども達がいろいろ経験できる環境を作って行きたいと思いました。」と感想を寄せて下さいました。今、私たち大人が肩の力を抜いて、出来ることからはじめていきましょう。

（新垣 早苗）

編集後記

エネルギッシュな新メンバーに刺激され、気持ちも新たに、またこの１年広報活動を頑張って行こうと思います。新しいコーナーや新企画が始まるか？始らないか？乞うご期待！それにしても、今年は未だに台風が沖縄に来ないので、珊瑚の白化が懸念されています。子ども達の未来の為に少しでも生きやすい世の中にしていきいたいですね。（新垣早苗）

広報委員；　外間 隆史（島尻）　末吉 建作（那覇）
新垣 早苗（中頭）　奥間由紀江（中頭）

通信委員：仲間 里枝（国頭）　鬚川 美穂（八重山）
伊波 孝子（宮古）

加入してよかった！みんなに勧めよう！
保護者の皆様の強い要望から生まれた
沖縄県 PTA 連合会推薦の ――
『小・中学生総合保障制度』
（こども総合保険）
AIU保険 Member of AIG
＝引受保険会社＝
ＡＩＵ損害保険株式会社 沖縄支店
=保障制度に対してのお問い合わせは=
◆小・中学生総合保障制度事務局◆
（あい保険工房内）
住所　：〒901-2126 浦添市宮城２－２４－２
ＴＥＬ：０９８－８７８－００２５